

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ともえ 1F		
所在地	静岡県静岡市葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	令和2年8月	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JievosvoCd=2274201579-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 9月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に保育施設があり、天気の良い日は0歳児～2歳児が元気に園庭を走り回っています。その姿を目を細めて見ている入居者様。環境には恵まれていると思います。現在はコロナの影響で、はなかなか交流は出来ませんが、以前は幼児さんの訪問もあり小さな子供さんとの時間が持てるのがともえの特徴です。コロナ禍において、外出、外食が出来ない分、体操を午前、午後に行うようにし、室内で体を動かす時間を増やしています。ご家族がいらない入居者様も数名おられる為に、もう一つの大事な家族だと思い、サービスさせて頂いております。ご家族の面会時は管理者とご家族の会話も大事にし、ご家族の想いを少しでもケアに反映できるよう努力しております。入居者様に楽しんで頂くことを私達職員も楽しむ。そんなホームでありたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入った巴川に近く、周りは住宅に囲まれた静かな環境で、少し歩くと商業施設がたくさんある便利な事業所である。同じ大家さん運営の保育施設が隣接し、平日は子どもの姿が見え、声が聴こえる。保育施設と介護施設の交流は盛んで、避難経路の確保や雑草の駆除、電球替え等を協力したり、保育園の花壇作りを手伝っている。コロナ禍で外出制限をしている中、少人数での散歩や室内で楽しむ季節行事や体操に力を入れている。楽しみを作り、メリハリの有る生活をする事により、利用者が笑顔で過ごしていただくことを目指している。利用者に寄り添い、節度のある関わりを心掛け、第2の家族となれるように支援している。利用者ごとに担当を決め、日々の暮らしぶりを毎月知らせる一方、家族からの希望は職員間で共有し、職員同士の得手不得手を活かし補って、職員自らが考えて行動できるように努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、管理者と職員が共有し、敷地内の保育園と連携し、地域に密着したサービスを提供できるように努めています。	管理者交替の際、事業所理念を職員皆で再検討し、同じ理念を継続して採用し、新たな共通認識のもと、玄関等に掲示し実践している。職員の評価制度があり、目標達成の自己評価では、理念に沿った評価を意識していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の賛助会員になっています。以前は地域のお祭りにも参加させて頂いていましたが、コロナの影響で集まりには参加できなくなっています。	大家さんが隣に住み、積極的に地域との橋渡しをしてくれるため、夏祭りなどの地域行事に参加していた。現在は、コロナ禍の中、行事参加は制限されているが、回覧板を回し、地域情報を共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方やご家族に向けてお話をさせて頂いたり、地域の研修に参加して多職種の方々と話をする機会を作ったりしています。コロナの影響で現在は出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、第3金曜日と決めて行っていたが、コロナの影響により3月からは会議を開けず、紙媒体で報告としている。開催出来ている時は、以前より参加して下さる家族が増え、地域の方や市の関係者を交え、意見交換できており、サービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行っている。月次報告を送り、情報交換を積極的に行うことで、家族参加を増やすことができた。コロナ対応で書面での開催だが、地域や家族との意見交換の機会として活用し、職員との情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢介護課や生活支援課に提出する書類は、なるべく郵送せず、直接手渡しするようにしており、少しでも話す機会を作る努力をしている。介護相談員も現在はコロナの影響で来訪はないが、以前は運営推進会議も毎回参加して下さっていた	管理者は書類提出は手渡しを心掛け、直接関係各課に伺っている。去年まで防災会議に出席していた。4月、地域包括支援センターの変更があったが、引き続き協力関係を築くことを心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開き、職員に周知している。安全上、例外的に拘束が必要なケースも以前はあったが、ご家族と相談し、同意を得ている。玄関の施錠は、だいたい夜7時から朝6時半まで。それ以外は施錠はしていない。	マニュアルを整備し、管理者とケアマネジャー、1、2階の職員参加による、身体拘束検討委員会を年4回開催している。ホーム内研修は年3回実施し、研修の前にアンケートを取り、全員で情報を共有している。直近の会議では実際のスピーチロックについて学んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会が主導してホーム内研修を4ヶ月に一度行っている。委員会は3ヶ月に一度行っている。虐待や身体拘束について、アンケートをとったり、自分自身の日頃のケアについて考える機会も作るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者様は数名おり、月に一度面談が行われている。担当者が入居者様の現状について話す機会があるが、後見人制度についての研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に時間をかけて説明を行っており、ご家族の不安や疑問を解消できるようにしています。ご家族が納得するまで説明を行っています。解約時にご家族の気持ちに寄り添いながらお話を伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、月次報告書をご家族に送付しています。玄関には意見箱を設置してありますが、入っていることは殆どありません。ご家族が面会に来られた際に、管理者との時間を作る努力をしております。入居者様の意見は、各職員が話す中で感じとったり、本人の要望があると管理者に報告したりしています。	職員は1、2人の利用者の担当制で、居室の整理、おたよりのコメントを担当している。管理者は、家族の面会時には面談を心掛け、利用者・家族の意見を聴き取り、申し送りノートを利用して職員との情報共有を図っている。運営推進会議参加時も、家族の意見は活発である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議を毎月行い(現在はコロナの関係でリモート)代表者と管理者の意見交換等を行っている。職員の意見や提案は、ユニット会議や全体会議だけでなく、日頃出勤、退勤時に管理者は職員に話しかけ、会話の時間をとるようにしている。	法人系列事業所の管理者会議は毎月リモートで行われている。事業所の全体会議は2ヶ月に1度、ユニット会議はカンファレンスをかねて毎月実施し、休みの職員も参加している。管理者は職員の様子を見て、都度声をかけ、意見を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を導入し、職員がやりがいを持って働けるようにしている。各種手当や残業代は適切に支給されている。正月出勤特別手当、特別処遇改善等もあり、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育としては研修日誌をつけており、日々の覚えたことを記録し管理者が目を通してしている。一人一人のケアの力量は評価制度が出来てから今まで以上に把握しやすくなっている。社内研修、ホーム内研修と、研修の機会を定期的に設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今現在はコロナの影響で出来ていないが、地域のグループホームの交流会に参加し、意見交換等行いネットワーク作りを行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後にご本人との面談に出向き、アセスメントをとっている。ご本人と話す中でくみ取ったり、ご家族に話を聞き、ご本人らしく生活できるように職員間で情報共有し、安心した暮らしが出来るように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話をする時間を設けて、ご家族の不安、今までの介護の苦労等に耳を傾け同調し、ねぎらいの言葉をかけつつ、今後のホームでの要望をお聞きしている。話しやすい環境作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをとり、可能な限り、プランにご本人とご家族の要望を取り入れ、その方に適したサービスを提供できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の尊厳を守ったうえで、信頼関係を作るよう努めている。家事に参加することで役割を持ち生活して頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者を決めて月次報告を書いたり、面会に来られた際に職員とご家族が会話する中で、職員と家族間で良い関係性作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が以前から通っていた美容院に出かけたり、友人の面会等を続けている。ホームも推奨しているが、例としては少ない。	入居前から通っていた美容院へ、家族の協力を得て通うことができています。現在、コロナ禍の中、利用者の高齢化・入居年数の長期化により、友人・知人の訪問は少ないが、職員や利用者同士がよい関係となるような支援を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格や、身体の状態を把握し、トラブルが発生しないよう、良い関係性が保てるように橋渡し役をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのお見舞いや安否の確認、ご家族との連絡は退去後も継続することが多く、相談事にも真摯に向き合っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話や訴えを傾聴し、希望要望を把握し、入居者様本位のサービスが提供できるよう努めている。	入浴中や車の移動時など、利用者一人ひとりの何気ない言葉を聴き取り、聴いた内容を記録して職員で共有し、できるだけ叶えるようにしている。意思疎通が困難な場合は、利用者の顔つきや表情を見て、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴に関しては情報を職員間で共有するようにしている。家族のいない生活保護の方に関しては情報が乏しく難しい面もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録を記しており、一人一人の一日の過ごし方を把握している。日々の観察により心身状態の把握、家事等もどんなことなら出来るのかを検証している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリング、カンファレンス等またはご家族との会話、ご本人との話を通して本人に必要なケアを適切に提供できるよう、介護計画を立案するよう努めている。	日々記入する申し送りノートや、毎月作成しているモニタリングシートをもとに、ケアマネジャーの参加を得て、介護計画書を作成している。毎月行うユニット会議では、介護計画更新者のカンファレンスや利用者一人ひとりの状況について、時間の許す限り情報交換を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と申し送り、意見交換を通して職員間で正しく情報を共有するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを基に個別対応(支援)を行い、状態変化などがあった際はカンファレンスにて話し合い、新しいニーズ、プランを共有し実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問ヘアカットを利用しています。コロナ禍になるまでは、敷地内の保育施設の園児との交流が出来ていたが、現在は窓越しになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームクリニックによる全員診察、定期診察の訪問診療を受けています。また24時間対応なので急変時は連絡を取り臨時で診てもらっています。診療報告も毎月、月次報告書で詳細をお知らせしています。	全利用者が、24時間365日対応で往診してくれる協力医の診察を受けている。他科の診察も初期対応をして、必要な場合は他の医療機関を紹介してくれる。緊急時対応も可能で、診療報告は、家族へ月次報告書を届けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や、処置に来られた際に総だにや対応をして頂いたり、毎朝の定時連絡時に特変者や相談ごとの報告をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院関係者との情報交換が出来るように、なるべく定期的に病院に行くようにしています。病院関係者との関係づくりの為に年賀状を出したり、研修があれば参加したりしています(現在はコロナの関係で研修参加はないです)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化で重度化の際には、主治医から状態説明があり、ご本人、ご家族の意向を伺い、意向に沿った支援を行っています。	契約時に事業所の方針を説明し、その後1年に1度家族に確認をしている。状態が変わった時には医師の説明を受け、改めて家族の意向を聞いて支援している。職員は看取りの経験があり、落ちついて対応している。看取りの研修を、協力医の医師や看護師により実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っています。緊急時のマニュアルを掲示したり工夫をしています。事故発生時(転倒等)ホームクリニックに状況を説明し、必要に応じ往診して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災、避難訓練を定期的に行い備えています。地域との協力体制も出来ています。ホーム内研修だけでなく、社内研修も行っています	避難経路は2通りあり、年3回不定期に避難訓練を実施している。備蓄は1階、2階にあり、備品リストはあるが備蓄リストは作成中である。地域との協力体制について運営推進会議で検討され、併設する保育園との合同訓練を今後行う予定である。昨年の台風の際には、利用者を2階に避難させ夕食を一緒に食べた。	職員誰もが分かるように、3日分を目安に備蓄品を整え、備蓄品リストの作成を期待します。職員は夜間避難の不安があるとのことなので、夜間訓練の実施及び停電時対応の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの入居者様にあわせた声掛けをするように心がけています。また、その声掛けが拘束や虐待にあたらないように研修やアンケートを行っています。	職員は優しく、見守る姿勢で利用者に接している。施設長は職員の個性に合わせて、尊厳に対して指導をしている。利用者に対しての言葉使いには特に気をつけているが、フレンドリーな言葉使いを好まれる利用者もいて、節度を持って接するように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることは自分で選択して頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、それに合わせた支援、介助を行うように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪を行い、洋服は選択できる方には選択して頂いています。爪切りは入浴後に行い、巻き爪等は訪問看護時に頼んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じ献立が続かないように献立表を作り活用しています。ヨーグルトの小分け作業や出来ることを入居者様にして頂いており、食後は食器やトレイ拭きをして頂いています。	冷蔵庫の食材と、献立を見て同じ献立が重ならないように気をつけ、メニューを考えている。協力医の栄養士が時々献立表を見て、栄養面のチェックをしてくれている。利用者は、盛り付けや食器拭きなど、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は一日を通しタブレットに入力し管理しています。カリウム制限のある方には生野菜、生フルーツの提供を避ける為に工夫したり、食事形態をそれぞれの状態に合わせて提供したりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の口腔ケアから始まり、それぞれの状態に応じた口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、職員間で共有しています。特に朝食後はトイレに座って頂くようにしています。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、体調の変化などは申し送りノートを利用して、情報を共有している。現在は日中は自立している利用者が多いので、見守り支援に努めている。夜間ポータブルトイレを使用する場合は、清潔に気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2階の体操に参加して頂いたり、水分管理、入浴時の腹部マッサージ、便秘が改善されない入居者様は医療に相談し、便秘薬を処方して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴日は決めておらず、その日の体調に応じて対応しています。拒否がちな入居者様には職員を代えて対応したり、声掛けをしています。	週に2～3回は入浴できるように午前でも午後でも対応している。お湯は毎回入れ替え、入浴剤を数種類準備し、利用者を選んでもらっている。入浴拒否がちな利用者には職員や時間を変え、入浴剤を選んでもらう等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も昼寝をしたい方は昼寝をしています。就寝時間も特に決めてはいませんが、夏場は早めに冷房をいれ、冬場は早めに暖房をいれ、気持ちよく入床できるように自室の環境を整えるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助はまず他の職員に名前を見せ確認することから始め、ご本人の前で名前を読み上げる、口の中に確実に入れる、飲み込み確認後に口を開けて頂き口内に残っていないか確認させて頂いている。症状の変化等は申し送り等で職員間で情報共有し、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁の好きな方とは一緒に囲碁をしたり、ご本人に適した役割を行って頂いたりしています。昔の歌のDVDをかけたり、散歩に出かける等行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	巴川まで散歩に出かけ、鯉に餌を上げたりしているがコロナの影響で他の外出支援は控えている。毎年でかけた花菖蒲見学も今年は行われず、外食も出ていない。	コロナ禍の中、事業所全体での外出は制限しているが、事業所周辺の散歩や、収束後の外出先などの話題を楽しんでいる。利用者の状態をみながら、近くの巴川まで鯉や鴨を見に個別対応で出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方ができないのでホームで管理しています。欲しい物があれば職員と一緒に買い物に行ったりすることもありましたが、現在はコロナの関係で職員が買いに行ったり、またはご家族に用意して頂くようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて頂いたり、ご本人がご家族にTELしたいとの申し入れがあると、ご家族にTELしています。携帯電話をお持ちの方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には季節の飾りつけをしたり、園庭で遊ぶ園児を眺める為にソファを用意しています。玄関ホールでは熱帯魚を飼育したり、行事の写真を掲示したりしています。玄関先にはガーデンテーブル&チェアを設置し、お茶を飲む場所としても使われています。	併設する保育園が一番良く見える場所にソファが置かれ、利用者は子どもたちの遊ぶ様子を眺めることができます。清掃が行き届いた室内には、利用者の作品や写真を掲示する場所が決められていて整然としている。玄関にある行事の写真は、来訪者との話題作りに利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	園庭で遊ぶ園児の姿を見たり、テレビが見えにくい席の入居者様が見やすいように椅子、ソファを置いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に、出来るだけご本人とご家族の思うようにレイアウトして頂いています。馴染みのものを持って来ていただくように入居時にお話しますが、もって来られる方が少ない現状があります。	居室には、洗面台と収納力のあるクローゼットが設置されている。衣類などはクローゼットに収納されていて、整理整頓されている。入居時に馴染みの品を持ちこんだり、退去者が残したものを借りたり、自分の好みの部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、居間等、入居者様が移動しやすいように物の位置を考え、安全に生活できるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	㈱日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ともえ 2F		
所在地	静岡県静岡市葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	令和2年8月	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に保育施設があり、天気の良い日は0歳児～2歳児が元気に園庭を走り回っています。その姿を目を細めて見ている入居者様。環境には恵まれていると思います。現在はコロナの影響で、はなかな交流は出来ませんが、以前は幼児さんの訪問もあり小さな子供さんとの時間が持てるのがともえの特徴です。コロナ禍において、外出、外食が出来ない分、体操を午前、午後に行うようにし、室内で体を動かす時間を増やしています。ご家族がいない入居者様も数名おられる為に、もう一つの大事な家族だと思い、サービスさせて頂いております。ご家族の面会時は管理者とご家族の会話も大事にし、ご家族の想いを少しでもケアに反映できるよう努力しております。入居者様に楽しんで頂くことを私達職員も楽しむ。そんなホームでありたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivvosvoCd=2274201579-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 9月 5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を念頭に、入居者様、ご家族、敷地内の保育施設の職員はもちろん、近隣の住民の皆様にも笑顔で挨拶、会話をしています。入居者様と楽しい会話をすることも心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の賛助会員になっています。以前は地域のお祭りにも参加させて頂いていましたが、コロナの影響で集まりには参加できなくなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委推進会議で地域の方から質疑応答の時間を設け、認知症についての説明を行っています。管理者はキャラバンメイト研修を受けており、今後は地域の方に向けての認知症サーポーター養成講座も開催したいと思っておりますが、コロナの影響で実現できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日々の出来事、事故報告等を行い、アドバイスをいただき、会議等で職員に周知し、積極的に意見を取り入れ、ケア向上に活かすよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が来る際は、管理者は会話する時間をとっていたが、現在はコロナの関係で介護相談員は来訪できていない。市町村担当者とは提出書類がある場合は郵送せずに直接出向き、話をするようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、職員の知識向上に努めている。研修をすることで日頃から意識することを目標としており、玄関の施錠に関しては安全面を考え、夜勤者が一人の時間のみ施錠している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、虐待の意味や、普段の行動(言動)から起こりうる可能性を職員同士考え、互いに注意を払っていくよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者様は数名おり、月に一度面談が行われている。担当者が入居者様の現状について話す機会があるが、後見人制度についての研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に時間をかけて説明を行っており、ご家族の不安や疑問を解消できるようにしています。ご家族が納得するまで説明を行っています。解約時にご家族の気持ちに寄り添いながらお話を伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族から積極的に意見やアドバイスを頂いており、それを地域の住民や市からの出席者の方たちに聞いて頂いている。それらの意見やアドバイスは、会議等で職員に周知し、日頃のケア等に反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月開かれる管理者会議で意見交換している。管理者は職員と会話の機会を増やすことで、職員の意見や提案を話しやすい人間関係を作り反映させるよう努めている。その他、会議で時間を設けたり、年に2回は個人的に面談をしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間を守り、15分単位で残業代も出ている。資格手当、正月出勤特別手当、評価制度も導入し、やりがいをもたらしめている。有休も取りやすくし、各職員が安定した状態で向上心を持ち仕事に取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月管理者会議で代表者と意見を交換し社内研修だけでなく、ホーム内研修にも力を入れている。各ホームの力量に合わせて研修を行ったり、系列ホームの職員と一緒に仕事をする機会を設け、自分のホームにないことを取り入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の集いに参加し、地域の同業者との名刺交換、交流に努めていたが、最近ではコロナの影響で出来ていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時のアセス面とを細かく記載し、職員間で情報を共有し、入居者様、ご家族様が望む生活、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細なことでも聞き逃さないようにし、ご家族の不安、要望には耳を傾け、良い関係作りに努めています。面会に来られた際も、日頃の様子をお話する時間を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご本人とご家族の要望を受け入れ、ご本人がどのようなサービスを取り入れることで、その方らしい生活が送れるのかアセスメントをしっかりとっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方にふさわしい日常の過ごし方を考えています。職員と一緒に洗濯物を畳んだり、食器を拭いて頂いたり等、共に暮らしている同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月月次報告書を送り、情報を共有できるようにしている。面会に来られた際にはご家族との時間を設け、日常の様子をお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られることはかなり少なく、訪問理容や往診のドクター、ナースと馴染みの関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係を理解してトラブルになる前に不穏を察し、職員が中に入り橋渡しをしたり、職員がゲーム等をし、その場の雰囲気を変えるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて入院された方へのお見舞いはもちろん、ご家族からの連絡や、来訪された際は、誠意をもって対応させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時等、1対1のケア時は思いや本心を伺いやすいので、どんな小さなことでもその後のケアに活かすよう努めています。困難な方でも表情や日頃の様子を注視し、くみ取る努力をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、ご家族からも深く情報を得て把握するよう努めている。ご家族のいない方は生活歴の情報が得られず困難な場合もあるが、日々の様子を見ながら対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に入居者様の健康状態には十分注意しており、日常の様子はタブレットに記録して現状の把握に努めている。有する力も検証を行い、出来ること、出来ないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日頃から話を聞くよう努めており、問題があった場合はカンファレンスで意見交換をし、適切と思われる介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット、申し送りノート、日程表等に記入し、職員間の共有に努めています。それらを基準にカンファレンスで取り上げ、介護計画の実践や、ケアの見直しに努めています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の理念である「その人そのために」を念頭に、個別対応として柔軟な支援が出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で散歩に出かけることぐらいしか出来ていない。敷地内の園児の様子を2階から見て楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックによる訪問診療を受けている。24時間対応の臨時診察もあり、特変があった場合でも安心して診療が受けられる。診療報告をご家族にもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックナースによる訪問看護の日以外でも、診察や処置に来ている時に、入居者様の日頃の変化を相談し、入居者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、ご家族、医師との話し合いに参加している。定期的に病院に出向き、病院関係者との関係作りに努めるとともに、情報交換、相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化が見られた際は、主治医(院長)からご家族に説明があり、ご家族の意思を確認している。ご本人、ご家族の意思を尊重し、医師、や看護師、ホーム側が可能と判断した場合、看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが用意されており、定期的研修を行い、応急手当や初期対応を身に付けるよう努めている。静岡ホームクリニックに指示を仰いだり、必要であれば往診もお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害を想定した訓練は年に一度行っている。防災、火災や地震における避難訓練も定期的に行い備えています。地域との協力体制も出来ています。ホーム内研修だけでなく、社内研修も行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に合わせた声掛けをしており、無理強いはいないように努めています。プライバシー確保として自室に訪室の際は必ずノックをする等しています。トイレの確認も大きい声で話さないように注意して行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることは選択して頂くように心がけています。洋服や食べ物、飲み物等自己決定できるよう促す声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、個人の時間を優先するために、常にコミュニケーションを取り、入居者様の希望に添えるよう努め、寄り添った介助を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ際は、その日の気温や素材に気を配っています。洗濯物を畳む際は、ほつれや破れがないか確認しています。髭剃り、整髪、爪切りも注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節に合わせ、旬のものを取り入れた献立を考えて提供しています。色彩も考えて提供しています。一人一人の状態に合わせた形態でお出ししています。入居者様に時々リクエストをお聞きしたり楽しんで食事して頂けるよう努めています。ヨーグルトの小分け、もやしひげ取り、食器やトレイ拭き		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食量、水分量はタブレットに記録し職員間で情報共有しています。食事はたべやすい形状で提供し、水分が足りない方には色々な飲み物やゼリー等で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は起床時、毎食後、就寝前に口腔ケアを行っています。介助の方は昼食後はうがいのみ、それ以外は出来ることをして頂いてから介助で口腔ケアを行っています。夜間は義歯を自分で外して頂き、義歯洗浄剤に漬けておきます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	心身状況の低下により、排泄の自立が難しくなっていますが、トイレでの廃位説が出来るように排泄チェック表を基に、一人一人のパターンに合わせ支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、食物繊維が多い食材を使用したり、毎日水分量や、腸の動きを良くするために体操を行っています。個々に応じ、予防に取り組んでいるが、服用している来る市によっては便秘薬に頼らざる得ないこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴しています。透析に通っている入居様は曜日を決めての入浴になりますが、他の方は決めていません。3種類の入浴剤から好きな色を選んで頂いています。状態によりシャワー浴の方もいますが、足浴と一緒にいき、少しでも体が温まるように、脱衣所も温かくしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状態の変化で介護用ベッドに移行したり、身体に負担にかならないように夜間も気持ちよく寝れるよう、居室の温度を調整し、排泄や低床にして安全にも注意しています。無理に入床せず、寝れない時は居間で職員と話す時間を設け、心地よく眠れる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用中の薬のファイルが用意しており、理解するよう努めている。処方された薬を間違いなく服用して頂くために、声を出し確認し、飲み込み確認を行っている。症状に変化があった場合はホームドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活分担の中で、その方の役割をすることで、張り合いのある生活が出来るように支援している。音楽を流したり、DVDをかけたり、散歩、敷地内の保育施設の園児との交流、季節を感じて貰えるように行事を行い、気分転換に努めているが、最近ではコロナの影響で出来ないことが多くなってしまった。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望で近所に散歩に出かけることは度々あるが、ご家族や地域の協力で出かけることは殆ど無い。身体状況で外出が厳しくなっている方が増えているのが現状である。それ以外にもコロナの影響がかなり出ている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご本人でお金を管理されている方はおらず、ご家族かホームが管理している。一緒に買い物に行く機会も殆どない現状です(コロナの影響)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のいない方も数名おり、ご家族のいる方も自分で電話をかける方はいません。電話をしてほしいとの要望も出ていませんし、ご家族からかかってくることも殆どありません。1名のみ携帯電話を所持しており、ご家族と頻りに連絡を取り合っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には入居者様と職員が一緒に作った季節の壁画を掲示してある。ゆったりとTV鑑賞が出来るようにソファを置いたり、音楽を流したり、懐かしいDVDを流したりして、心地よさを演出できるように努めている。不快な臭いがないように心がけている。1年を通して温度調整を行い、必要に応じて加湿器を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性が良い同士でテーブルを囲むようにしたり、ゆったりTVを観られるようにソファを置いている。必要に応じ、テーブルのレイアウトを変えたり、席替えをして居場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものをお持ち頂くことの意味を説明させて頂いている。個々の居室内は好きなようにレイアウトして頂いているが、殆ど荷物のない入居者様もおられる。ご家族に説明して最小限の荷物で馴染みの家具等も持ってきて頂ける方は少ないのが現状である。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、脱衣所には手すりが設置してあり、廊下の両端に長椅子も置き、いつでも座れるように、安全に移動できるように支援している。動線を考え入居者様の居間の席を考えている。		